

## 農薬の散布

### 1 薬剤選びのポイント

発生する病害虫を予想しながら、野菜の様子を観察し、発生初期の兆候を見つけることが大切である。初期段階で薬剤を使用できれば、効果的で、薬剤の使用量も少なくてすむ。

作物名	適用病害名	希釈回数	使用濃量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	パカリス エフアリ を含む農薬の 総使用回数
野菜類 (トマト、ミニトマト、 かぼちゃを除く)	うどんこ病 灰色かび病	500～ 1000倍	—	発病前から 発病初期 まで	—	散布	—
トマト	葉かび病	500倍					
ミニトマト	葉かび病		500倍				
ししとう	葉枯病	500～ 1000倍					
食用ゆかり	葉枯病		500～ 1000倍				
にら	白腐葉枯病	500～ 1000倍					
	灰色かび病		16回				
かぼちゃ	うどんこ病	3.2g/10a					無人ヘリコプ ターによる散布
ぶどう	灰色かび病	500倍	—			散布	
ホップ	ハスカップ						
もも	灰産病	500倍	—			散布	
ネクタリン							
おうとう							
すもも						散布(土壌)	
ブルーベリー	斑点病					散布	



- ① 対象とする野菜に使えるか。
- ② 対象とする病気や害虫に効果があるか。
- ③ 形状を確認する。水和剤の場合、希釈率はどのくらいか。
- ④ 収穫の何日前まで散布が可能か。
- ⑤ 散布回数の確認。オーバーしていないか (この場合は規定なし)。

### 2 散布液の作り方

- ① 噴霧器に散布量 (100ml/m<sup>2</sup>が目安) の約半量の水を入れる。
- ② 展着剤の必要量を入れ、よくかく拌する。
- ③ 薬剤を入れよくかく拌する (乳剤→顆粒水溶剤→水和剤)。
- ④ 水和剤は、噴霧器に入れる前に別の容器でよく練り溶かす。
- ⑤ 最後に、所定水量となるように水を追加する。

### 3 散布方法

散布に適しているのは、風のない日の朝と夕方である。散布直後に雨が降ると薬剤が流れて効果がなくなるので、半日程度は雨の降らない日を選ぶ。1回の散布で効果が出なければ、7～10日おきに2～3回の散布を目安にする。

葉菜類 まず、葉の裏にかけて、その後、葉の表や全体にかける。

果菜類 下葉の裏にかけて、順に株の上部に向かい、最後に全体の葉の表面にかける。

●ご使用にあたっては製品ラベルをよく読み、適切にお使いください。

## ナスの葉を食害する害虫

### 1 食害痕からみた害虫の見分け方

- 丸い滑らかな穴 → ハスモンヨトウ  
ヨトウムシ  
ナメクジ
- 円形、だ円形の穴、果実にも → オオタバコガ
- 表皮を残し、網目状 → テントウムシダマシ
- 小さい1～2mmの穴 → ナスナガスネトビハムシ

### 2 外見からみた害虫の見分け方



#### ハスモンヨトウ

8～10月 頭部の後ろに一对の黒い斑点  
虫が見つかる

【農薬】プレオフロアブル、フェニックス顆粒水和剤



#### ヨトウムシ

5～6月・9～10月 横と縦に黒い斑点  
虫が見つからない

ハスモンヨトウと同時防除



#### ナメクジ

粘液物が白く光る 土に湿り気

【農薬】スラゴ



#### オオタバコガ

8～9月 緑色、褐色 長い刺毛基部は黒点

【農薬】プレオフロアブル、フェニックス顆粒水和



#### テントウムシダマシ

5～10月 テントウムシに類似 28個の斑点  
光沢がない

【農薬】アディオン乳剤、ダントツ水溶剤



#### ナスナガスネトビハムシ

6～8月 葉に小さい2～3mmの穴

【農薬】アディオン乳剤、スミチオン乳剤